

令和8年度 評価計画及び自己評価

(計画)・中間・最終)

宮原中学校区 校番 12 学校名 呉市立宮原小学校

a 学校教育目標	自ら学び共にのびる <小中一貫教育目標> 資質・能力に支えられた 「生きる力」の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命) 学力の向上 社会性・規範意識の涵養 <ビジョン> (将来の学校像) 宮原小学校で学んでよかった、宮原小学校で学ばせてよかったと思える学校								
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本中学校区では、「資質・能力に支えられた『生きる力』の育成」を小中一貫教育目標に、児童の学力の向上と社会性・規範意識の涵養に取り組んでいる。本校でも、学力の向上のために「子どもの問いが生きる『考える授業』づくり(呉市教委)」により教師の授業改善を図った。授業改善の視点を共通理解し、日々の授業や校内研修等で授業改善のPDCAサイクルを回しながら実践・研究している。今年度も主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、「子どもの問いが生きる『考える授業』づくり」による授業改善をさらに推進し、「子どもが『分かる』『できる』授業」となることを目指す。また、児童の社会性・規範意識の涵養に向けて「生活のスタイル」の指導、実践と「防災教育の深化」により児童の自己指導力の育成を図ってきた。組織的・継続的な取組により、そうじ、あいさつ、くつそろえは児童に身に付いてきた。今年度も「生活のスタイル」の指導、実践を継続し確実な定着、習慣化を図るとともに、いじめを絶対に許さない安心・安全な学級風土の醸成を目指す。中学校区の宮原子どもサミットで、いじめ撲滅に向けて取り組んでいく。また防災教育において、災害が起きた(起きそうな)ときの避難行動についての理解を深め実践的な避難訓練等を実施し、児童の自己指導力の一層の向上を図る。										
育成すべき資質・能力 知識及び技能 論理的思考力・判断力・表現力 主体性・協働性 自己指導力(自律・貢献) 郷土愛											
評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)											
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	自己評価					
						上半期		下半期			
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	○子どもが「分かる」「できる」授業に改善する。	○「分かる」「できる」授業づくり ・構造的な板書 ・目指す姿につながる振り返り ・個を大切にしたい支援の充実 ・協働的な学びの場の工夫 ○教材研究・教材解釈 ・「分かる」「できる」仕掛けづくり ○情報活用能力の系統的な育成(キュビナ、思考ツールの活用等)	○児童アンケート「主体的な学び」に関する項目「授業では、自分の考えを、わけをつけて表現しています。」における肯定的評価 ○単元テストの平均点 ・国80点以上・算75点以上 ・国算の正答率30%未満の児童	85						
**	児童に自己指導力の育成	○誰もが安心・安全な環境で学べる学校風土の醸成 ○児童に生活のスタイルを定着させる	○積極的な生徒指導 ・安心・安全な学級風土の醸成 ○生活のスタイル ・スタイルを守るよさの指導と評価 ・委員会活動等高学年の参画	○児童アンケート「自己有用感」に関する項目「自分にはよいところがある。」における肯定的評価 ○児童アンケート「いじめはどんな理由があっても許されないとと思う。」における肯定的評価 ○重点項目の達成率 ・あいさつ(自分から先に) ・くつそろえ(下足・トイレ) ・そうじ(さしすせそ掃除)教師の見取りによる児童の姿	85						
		○防災教育を深化させ西日本豪雨災害を風化させない	○「自分の命は自分で守る」意識と実践力の向上	○児童アンケート「災害が起きた(起きそう)などときの避難の仕方、場所が分かっている児童の割合	100						
*	児童の基本的生活習慣の定着と体力の向上	○基本的生活習慣を定着させる ○体力を向上させる	○生活リズムの定着 ○体育科の授業改善 ・運動量の増加 ・投げる・走るの繰り返し	○健康カードの達成率 ・「ここに健康カード(早寝・早起き・しっかり朝食)」 ・児童アンケート(家庭学習・メディアコントロール)児童の達成率 ○新体力テストの達成率 ・50m(呉市) ・ボール投げ(小中一貫) ・シャトルラン(本校) 全国平均を上回る(男女)	90						
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	○働きやすい職場環境を実現する	○協働できる職員の間関係作り ○ICTの効果的な活用	○児童と向き合う時間を確保していると感じる教職員の割合 ○日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の割合	90						

[k:評価]

A:100≦(目標達成)
 C:60≦(もう少し) < 80

B:80≦(ほぼ達成) < 100
 D:(できていない) < 60